

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

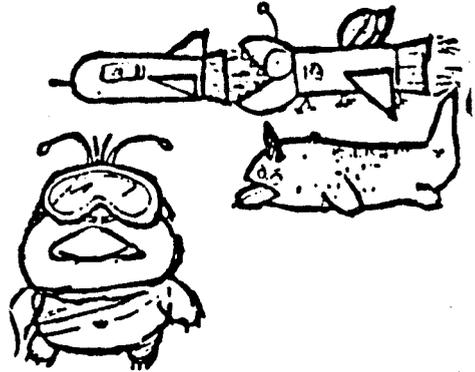
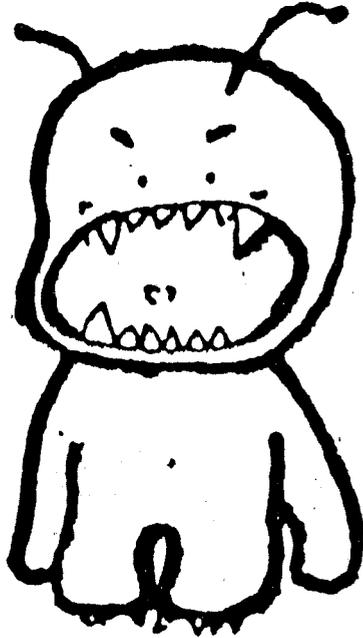
# トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502  
トマ喰い虫社

☎03(498)6095 044(63)5101  
FAX. 044(63)9907

No. 51  
90.1.20  
定価 100円

月刊反トマホーク通信改題



トマ喰い虫とは、神奈川県横須賀市の久里浜中学の生徒が考え出したトマホークを食べてしまう生き物です。今、世界中で繁殖している益虫なのだ!

## 特集●タイコンデロガ事件「幕引き」に怒る

全国非核自治体アンケート  
回収にご協力ください

[発行] トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員 (月間会費)

団体 1口 2000円

個人 1口 1000円

●参加会員 (月間会費)

団体 1口 1000円

個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口

2000円

あなたも仲間! (会費は本誌購読料を含みます)

# 特集● タイコンデロガ事件

## 「幕引き」に怒る



『東京、水爆行方不明事件に幕引き』  
(1989.12.30「ニューヨーク・タイムズ」)

マルタにおける米ソの冷戦終結宣言や、ベルリンの壁の崩壊を、アジア太平洋地域の縮小や日本の軍拡をストップする好機として生かそうと言う問題意識が、多くの人たちの共通のものになろうとしている。またとない好機であり、それ自身についてはもちろん大賛成である。今こそ、グローバルな視野のもと

特集●タイコンデロガ事件  
「幕引き」に怒る!

## 「平和運動」の現局面に思う

梅林宏道

に、日本の平和運動の新局面を創り出さなければならぬと思う。  
しかし、日本の「平和運動」の弱点を克服できるだろうか、という懸念を拭うことができない。太平洋に軍縮テーブルを作ろうと言う提案がある。国会の中の軍縮のための委員会をつくらうという提案がある。日米安保条

十二月二十七日、アメリカ政府はタイコンデロガ事件について日本政府が行っていた事実関係の照会にたいして、これ以上の情報の提供を拒否すると回答した。そして日本政府はこの回答を受け入れた。日米両政府合作の「幕引き」である。真相究明と真の解決を求める国民、議会、自治体の声を踏みにじる許しがたい暴挙である。あらためて、この国の民主主義の貧しさを思う。その流れに背を向けて、何らの自主的な判断も外交努力もなく、アメリカの世界戦略に手を貸し続ける日本は、「冷戦」の最後のランナーとなつて、真実をアスファルトで覆い隠した「トラック」の上を突っ走ってゆくのだろうか。だが「待った」をかけるのだろうか。反トマ全国運動は、日米両政府に抗議文、各政党に対する公開質問を発し、全国の一四五〇の非核宣言自治体の考えを問うアンケートを送った。今号ではそれらの文書の紹介を中心に特集を組んだ。今、草の根からのような行動が起こせるのか、起こすべきなのか一緒に考えよう。皆さんからの提案、意見をお待ちしています。(編集部)

ける日本は、「冷戦」の最後のランナーとなつて、真実をアスファルトで覆い隠した「トラック」の上を突っ走ってゆくのだろうか。だが「待った」をかけるのだろうか。反トマ全国運動は、日米両政府に抗議文、各政党に対する公開質問を発し、全国の一四五〇の非核宣言自治体の考えを問うアンケートを送った。今号ではそれらの文書の紹介を中心に特集を組んだ。今、草の根からのような行動が起こせるのか、起こすべきなのか一緒に考えよう。皆さんからの提案、意見をお待ちしています。(編集部)

# 編集室から

## 紙名を変えるにあたって

まるで、十年の歳月を一つ飛びするような激動の中で、世界は一九九〇年を迎えました。お元気で過ごしてはいかがでしょうか。約一ヶ月遅れの新年のご挨拶をお送りします。  
さて、前号で予告したとおり、「月刊反トマホーク通信」は今号から「月刊トマ喰い虫」とタイトルを改めて皆さんにお届けします。「紙名、なぜ変えるんですか。前にも『トマ喰い虫』というのがあったような気がするんですが?」(山形のSさん)など、何人かの方からお尋ねもありました  
かつて、私たちは「トマ喰い虫」というメディアを発行していました。第一期は一九八四年初めから夏にかけて出されたB3見開きの新聞。第二期は、八四年十一月から八八年五月にかけて六号まで出されたB4版の洒落た雑誌でした。この「第二期トマ喰い虫」は、たんに運動や軍事の情報、論説だけでなく、思想や文化、ライフスタイルまでも視野にいられたユニークなメディアとして、多くの人々から、高い評価が寄せられていたものです。  
「反トマ通信」は、「第二期トマ喰い虫」から一年おくれで創刊されました。「必要な情報を必要な時に」をモットーに「トマ喰い虫」の比較的ゆったりとした足取りと役割分担し、「運動の機関紙」としての性格のより鮮明なメディアとして発行してきました。

しかし、この「二面作戦」は私たちに荷が重すぎて、八八年五月を最後に「トマ喰い虫」は休刊状態になっています。  
一方、反トマ運動の進展と世界の動き、新たな人々との出会い、必要なデータをしっかりおさえながらも、より豊かに反核・平和を語り、伝え合うメディアを必要としています。「反トマ通信」の軍事情報満載の、あまりに専門的な紙面への反省が生まれました。昨年十二月で第五十号を迎えたのを区切りによりよいメディア作りをめざすための飛躍のバネが必要でした。「反トマホーク通信」という、簡潔明瞭だがやや味気無いタイトルに比べて、私たちが目指すメディアのあり方によりしっくりくるチャーミングな名前「トマ喰い虫」がすぐ頭に浮かびました。  
紙名変更の理由、わかっていただけただけでしょうか。名前負けしない内容を作るためスタッフ一同頑張っています。いっそうの支援、ご批判をお願いいたします。  
● ● ●  
本島長崎市長狙撃に心の底からの怒りを感じます。私たちのささやかなメディアもこの国のもう一つの「タブー」である核問題に挑戦しつづけることで、言論の自由と真の民主主義を創る努力に連なっているのだと背筋を伸ばされる思いです。(編集部 田巻一彦)

約は不要になるという説が現れる。ところが不思議なことにタイコンデロガ事件を幕引きしようとする日米両政府の画策が明らかになったとき、ほとんど何の反応も起きないのである。大きく高邁な絵を描いて見せようとする者は現れるが、現に進行している事態と格闘しようとする者が余りにも少ない。大きく絵を描いて見せることは必要だが、それだけではトータルな展望を提出したことはない。トータルな展望には現実との接点、つまり行動プログラムが必要である。

冷戦の終結は北西太平洋における海の軍事的対決をも不必要にするはずである。少なくとも、冷戦論理による米海軍の前進配備、とりわけ核軍備の前進配備は必要ではなくなる。今日、北西太平洋での海洋核兵器は、ほとんどソ連との対決のためにのみ必要とされているのだから。

事件が「朝」に怒る!  
タイコンデロガ事件

### 抗議文——中山太郎外務大臣殿

しかし、ことはそんなにうまくいかない。アメリカの軍縮を経済的からだけで説明しようとするのは真実ではない。基本的な構造を考えてみるだけでも、軍は最大限に既得権を守ろうとし、議会は有権者に対して点数を稼ごうとする。このとき議員は軍縮を求める平和運動の論理に大きく左右される。ヨーロッパから軍縮の圧力が大きな影響を果たしたればこそである。

であろうが、軍の論理は簡単には変わらないだろう。日本の核艦船拒否の声が強まれば、あるいは、タイコンデロガ事件の幕引きを許さない日本の世論が顕在化してゆけば、アメリカの西太平洋の軍縮をうながす勢力に力を与えるに違いない。

し、その二日後に横須賀に入港したという事件に重大な関心を持ち、その真相の究明と真の解決に努力を重ねております。

ところが昨年の暮れ、私たちは日本政府がこの事件の事実関係を米国に照会していた件について、米国が回答を拒否したこと、そして日本政府が拒否回答に理解を示しそれを受け入れたこと、を報道により知りました。十二月三〇日付け『ニューヨーク・タイムズ』は、「東京、水爆行方不明事件に幕引き」と大きく報道しました。私たちは、これらの報道に驚き、日本政府の対応に強い憤りと疑念を抱きました。

そもそも日本政府は、事件が発覚した昨年五月に米国に照会して以来、度重なる国会での質問、自治体首長による要請に対して全く誠意の無い対応を続けて参りました。七カ月の間、ただ「米政府に照会中」と答えるのみで、何一つ積極的な姿勢を示しませんでした。国民には、日本政府はひたすら真実が明らかになることを恐れ、国民が事件を忘れてしまうことを待っているように見えました。このような経過から、今回の米政府の口頭による回答拒否の伝達も、日本政府の希望にそって行われた儀式のように私たちには見受けられ、重大な疑念を抱かせます。日本政府がやすやすと照会を取り下げたことは、多くの

国民の希望に反する暴挙であり、私たちは、ここに強く抗議します。

偽りの上に立った外交で、日米の友好も、日本の安全保障も築かれるはずがありません。タイコンデロガ号が、事故の二日後に横須賀に入港したと言う航海日誌に書かれた事実を疑う国民は、もはや一人もいないでしょう。日本政府のみが、確認されていないと言いつ張るような国民無視の政治を一刻も早く止め、米政府への照会を再開するとともに、日本政府が航海日誌などの文書を独自に調査し、事

### 抗議文——ジョージ・ブッシュ大統領殿

明けましておめでとうございます。私たち「トマホークの配備を許すな! 全国運動」は、一九八四年に発足した各地の市民グループ、個人からなるネット・ワークです。核搭載疑惑艦船の入港問題を中心に、日本、そしてアジア太平洋地域の非核化のためのさまざまな課題に取り組んできました。

昨年来、私たちは貴国の空母タイコンデロガ号が一九六五年、沖縄近海で水爆を載せたまま艦載機を水没させる事故を起こし、その

件正しい解決と非核三原則の厳守について新しい施策に乗り出すことを、私たちは強く要請いたします。

冷戦の終結など世界が大きく再編されている今、このことは日本がアジア太平洋の軍縮に向かって自主的な外交を展開するための第一歩であると信じます。

ご返事を下さるようお願いいたします。一九九〇年一月一〇日

二日後に横須賀に入港したという事件に重大な関心を持ち、その真相の究明と真の解決に努力を重ねてまいりました。

ところが、昨年の暮れ、わが国の政府が昨年の五月にこの事件の事実関係を貴国に照会していた件について、貴国が回答を拒否したことが報道されました。その理由は、「これ以上の議論は米軍の運用上の政策を危うくし、国家安全保障上の利益に悪影響を与える」と

定に驚き、極めて遺憾に思いました。ここに先ず私たちの抗議の気持ちを伝えます。

タイコンデロガ号事件のような不幸な事件が、日本とアメリカ両国民の間に起こった現在、正しい事実関係を両国民が共有すること無くしては、真の解決はあり得ないはずですが、にもかかわらず、貴政府が、日本政府の照会に対して、貴国のすぐれた情報公開制度によって既に明らかにしている航海日誌などの文書の内容すらも回答することを拒否したことは、両国民の信頼関係を重大な問題を残す

特集 ●タイコンデロガ号事件  
「驚き」に怒る!

## 政党への公開質問状

明けましておめでとございます。世界が大きく変わろうとしている中、新しい希望の年一九九〇年を迎え、皆様ますますご健勝のことと存じます。とりわけ、今年は、二月にも予想される総選挙を控え、すでに意欲に満ちた活動を開始されていることと推察いたします。さて、私たち「トマホークの配備を許すな!

て、日本が外交不在といわれる現状から脱却し、新しい世界情勢のなかで自主外交を展開する力をつける契機となると考えるからです。ところが昨年暮れも押し詰まって、米国はこの事件について日本政府からの外交ルートによる照会に対して回答をしない、と答えてきたことが明らかになりました。その理由は、「これ以上の議論は米軍の運用上の政策を危うくし、国家安全保障上の利益に悪影響を与える」というものでした。日本政府は米国のこの拒否解答を受け入れ、照会を取り下げました。二十四年前のタイコンデロガ号の寄港の事実についての説明をこのように拒否するということは、米側が今日も続く疑惑を事実上認めたと受け取れます。また、このやりとりが先例となりますと今後疑惑に対する外交上の歯止めが失われてゆく危険があります。十二月三十日付け「ニューヨークタイムズ」は、「東京、水爆行方不明事件に幕引き」と、大きく報道しました。まことに憂うべき事態です。

ことになりました。しかも、伝えられる貴政府の回答拒否理由は、不可解なものです。二十四年前の貴国の一空母の寄港先を明らかにすることが、なぜ今日の貴国の安全保障上の利益を損なうことになるのでしょうか。貴国は、今日も我が国の非核三原則を侵犯し続けていることを、暗に示唆しておられるのでしょうか。更に、貴国の安全保障上の利益を論じながら、非核三原則に依拠している私たち日本国民の安全保障をないがしろに考えておられるのでしょうか。

全国運動」は、昨年来、国際環境保護・平和団体「グリーンピース」と協力して、いわゆるタイコンデロガ号事件の真相究明に努力してまいりました。ご存じのように、この事件というのは、一九六五年、米空母タイコンデロガ号が沖縄近海で艦載機を水爆もろとも水没させる事故を起こし、その二日後に横須賀に寄港したというものです。

いことを別の方法で明らかにしてほしい。この申し入れは、保守、革新をこえた多くの首長によって提出されていますが当面国民が求めていることを的確に表現していると思えます。非核三原則の現状は放置できない状態にまで悪化しています。総選挙を前にして、私たちは、現在衆議院、参議院に議席を持つ諸政党に対してタイコンデロガ号事件の真相究明と非核三原則の現状改善策について、質問することに致しました。回答頂いた内容は、マスコミその他を通じて広く国民に知らせる所存です。また、ご回答頂いた皆様にもご報告いたします。ご多忙中まことに恐縮ですが、一月二十四日必着にて下記宛てに回答を郵送、もしくはFAXでお寄せ下さるようご協力をお願い致します。

か。私たちは、貴政府が、日米両国民の信頼関係を維持するために何が重要であるかを再考され、タイコンデロガ号事件に関する日本政府の照会に改めて回答されんことをここに強く要請します。ご返事を下さるようお待ちしております。一九九〇年一月一〇日



この事件は、日本への核持ち込み疑惑にはほとんど物理的とも言える証拠を残しました。いまなお海底に眠る水爆、航海日誌、司令官(艦長)報告書などの公文書、元乗組員の証言などなど。私たちがこの事件の真相究明と真の解決のために力を注ぐのは、単に過去の一事件の責任を明らかにするためではなく、国是たる非核三原則を本物にする努力を通し

二、「非核三原則の現状を改善してほしい」という自治体首長による上記申し入れについて、貴党はどうお考えですか。『事前協議がない以上、核の持ち込みはない』という説明とは別の方法で、国民が核の持ち込みのないことを納得するためには、どのような方法を講じるべきであると貴党はお考えですか。

一九九〇年一月一〇日

### 「徳島発」 非核三原則立法化 請願署名始まる

徳島県内の市民で作る、「非核三原則の立法化を求める徳島県実行委員会」は、「一、核搭載疑惑艦船の日本寄港の度を増す今、米政府よりの事前協議申し入れを待つまでもなく、真実への解明の努力は国民に対する政府の義務である。一、長崎を最後の被爆地に」を趣旨として、非核三原則の立法化を求める衆参両議院議長にあてた請願署名を開始し、全国に協力を呼びかけている。連絡先は、徳島県那賀郡鷲敷町和食 同実行委員会事務局。

# タイコンデロガ事件に関する調査対象●一四五三件 全国非核自治体アンケート調査

## 回答の回収に力を貸してください 回答期限●二月十五日

全国の「非核宣言自治体」は八十九年九月現在で一四五三にも上ります。その数は今でも増え続けています。

その背後には、圧倒的多数の国民・住民の非核への願いがあります。にもかかわらず、なぜ、日本の非核三原則をめぐる状況はこんなにひどくなってしまっているのでしょうか。タイコンデロガ事件のあんなに出鱈目な「幕引き」をやすやすすと許してしまっているのでしょうか。

自治体の「非核宣言」など、無力だということでしょうか。いや、決してそんなことはない、と私たちは思います。「非核世論」に支えられて存在しているそれらの自治体が、現状をどのように認識し、感じ、対処しているはしようとしているのかを、ありのままに見詰め直す中から、現状を変革する可能性のありかと筋道を見つけない、と私たちは考えました。

● ● ●  
全国の非核自治体にアンケート調査をしよ、というアイデアは、昨年十一月長崎で開かれた「反トマ運動全国会議」で出されたも

のです。すぐに、神奈川、広島、熊本のメンバーでプロジェクト・チームが作られ、準備に入りました。そして、一月十六日には、全自治体へのアンケート用紙の送付を終えました。その内容は、左のとおりです。  
アンケート用紙には、タイコンロガ号の「航海日誌」を初めとする資料も同封しました。非核自治体には、なによりもまず事実をしっかりと認識してもらいたい、と思ったからです。

● ● ●  
発送は予想以上に大変な仕事でした。一番大変だったのは、何と言っても封筒の宛名書き。一四五三という数もさることながら、一つ一つ「市町村要覧」を引きながら住所を調べて書く仕事は根気のいる、骨の折れるしごとでした。横浜の生活クラブ生協の主婦のみなさんが受け持ってくれました。「非核自治体ってほんとに沢山あるんですね」という言葉には実感がこもっていました。あらためて感謝します。

● ● ●  
でも、ほんとの大仕事はこれからです。沢

山の回答を回収出来なければ、やった意味も半減してしまいます。そこで、お願いがあります。アンケートの回収に手を貸していただけないでしょうか。あなたのお近くの自治体に声をかけて、ちゃんと回答するように、お尻をたたいていただけないでしょうか。電話をかけるだけでも自治体の対応はかわってくるものです。これを機会に周辺の非核自治体を訪ねてみようか、なんていう人があらわれたら素敵です。一カ所でも二カ所でも結構です。やってみようかなと思ったら、トマ喰い虫社まで、ご連絡下さい。自治体リストと自治体に送ってある文書一式をお送りします。アンケートの回収締切りは二月十五日、あまり日数もないのですが、よろしくお願いします。(二月一日から十五日にかけてトマ喰い虫社は昼間の人がいるようになっていきますので、連絡がとれます)

● ● ●  
最後に、この企画は財政的にもビッグです。折り込みの別紙にあります。資金カンパのほうもいっそうのご協力をお願いします。

## タイコンデロガ事件に関するアンケート

問1: 1965年、空母「タイコンデロガ」が、沖縄近海において艦載機を水爆を搭載したまま水没させたという事故を起こし、その二日後には横須賀に入港していたことが明らかになりました。この事件に関して現時点で関心をお持ちですか。

- 1. 重大な関心を持っている
- 2. 関心を持っている
- 3. あまり関心がない
- 4. 関心がない

問2: この事件に対して貴自治体ではなんらかの対応をとられましたか。

- 1. 対応をとった
- 2. 今後対応する予定である
- 3. 対応していない

1または2とお答えの場合、その内容をお教え下さい。

問3: 航海日誌などにより、タイコンデロガによって日本に核兵器が持ち込まれたことは間違いないと多くの国民が非核三原則の侵害に不安を抱いています。この国民感情についてどうお考えですか。

- 1. 同感である
- 2. 理解できる。
- 3. 理解できない
- 4. その他( )

[理由をお聞かせ下さい]

問4: 非核三原則に関して政府は一貫して「米国から事前協議の申し入れがない以上核の持ち込みはない」と説明しています。貴自治体の住民の不安と疑惑はこの説明で解消されているとお考えですか。

- 1. 解消されている
- 2. 解消されているとは言い切れない
- 3. 解消されていない
- 4. その他( )

問5: 前問で1. 以外のお答えの場合、住民の不安と疑惑はどのような施策によって解消されるとお考えですか。政府に何を要望しますか。自治体としては独自に何が出来るとお考えですか。

(政府に要望する施策)

(自治体独自の施策)

問6: アメリカ政府は日本政府の照会への回答を拒否しました。これについてどのようにお感じですか。

- 1. 遺憾に思う
- 2. 遺憾だが止むを得ない
- 3. 当然のことと思う
- 4. その他ご意見

ご協力ありがとうございました。

# 論壇



ジョシュア・シュアラ

一九六五年に沖縄近海で水爆搭載機の水没事故を起して米空母タイコンデロガの横須賀寄港、核持ち込み疑惑について、日本政府がこれ以上照会しないと決めたのは残念である。日本政府は非核原則を履行し、アメリカ海軍の「核の有無を否定も肯定もしない」政策に挑戦する機会を、また失った。

ソ連や東欧の変化は、この問題を追及する時の日本政府の憶病さを言い訳のできないものにした。陸における冷戦の終結で、海での冷戦も終結に向かわねばならない。アメリカの艦船が持つ核兵器について、率直に問題を投げても、日米関係に悪影響を及ぼすまい。たとえ非核原則がなくても、日本政府はアメリカの海

核使用を抑制する最善の道であると、現在、アメリカ海軍は考えている。日本の港に持ち込まれている海洋核兵器が残った、トマホークを含む海洋核兵器の撤廃を同盟国間の信頼関係に依存し、核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

「誤りを正す勇氣によって人類の歴史は進歩する」。最近ベルリンを訪問した際、海軍首相はこう語った。この信念に基づいて、海軍首相は非核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

「誤りを正す勇氣によって人類の歴史は進歩する」。最近ベルリンを訪問した際、海軍首相はこう語った。この信念に基づいて、海軍首相は非核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

## 残念な核持ち込み疑惑引き

### 日本政府に非核原則の実行を望む

核使用を抑制する最善の道であると、現在、アメリカ海軍は考えている。

日本の港に持ち込まれている海洋核兵器が残った、トマホークを含む海洋核兵器の撤廃を同盟国間の信頼関係に依存し、核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

「誤りを正す勇氣によって人類の歴史は進歩する」。最近ベルリンを訪問した際、海軍首相はこう語った。この信念に基づいて、海軍首相は非核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

「誤りを正す勇氣によって人類の歴史は進歩する」。最近ベルリンを訪問した際、海軍首相はこう語った。この信念に基づいて、海軍首相は非核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

核使用を抑制する最善の道であると、現在、アメリカ海軍は考えている。

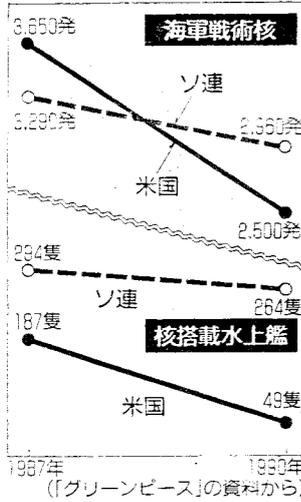
日本の港に持ち込まれている海洋核兵器が残った、トマホークを含む海洋核兵器の撤廃を同盟国間の信頼関係に依存し、核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

「誤りを正す勇氣によって人類の歴史は進歩する」。最近ベルリンを訪問した際、海軍首相はこう語った。この信念に基づいて、海軍首相は非核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

「誤りを正す勇氣によって人類の歴史は進歩する」。最近ベルリンを訪問した際、海軍首相はこう語った。この信念に基づいて、海軍首相は非核原則を履行し、海洋核兵器の撤廃を積極的に求める勇氣を持つべきである。

## 米海軍、戦術核兵器を大幅削減

# …そして、トマホークが残った



「朝日新聞」90.1.16 より

昨年十二月十八日、「グリーンピース」が情報公開法で入手した文書によって公表したところによると、米海軍は艦船搭載の戦術核兵器として広く用いられてきた、テリア、アスロック、サブロックの退役を決め、すでに実行に移している。

「テリア」は水上艦用の核・非核両用艦対空ミサイル、「アスロック」は同じく水上艦用の核・非核両用対潜水艦ロケット、そして、「サブロック」は攻撃型原潜用の核弾頭みの対潜水艦ロケットである。

（田巻一彦）

# 反核ホット ライン だより

22

## 入港情報

89・12・21、22、31  
P級Ⅰ (原子力潜水艦パーミット級)  
S級Ⅱ (原子力潜水艦スタージョン級)  
L級Ⅱ (原子力潜水艦ロサンゼルス級)  
(12・27) パファー(P級) 午後4時  
横須賀に入港

\*1989年12月31日現在各港への原子力艦  
の入港回数は、  
横須賀 29回 (うち原潜28回)  
佐世保 2回 (うち原潜2回)  
ホワイトビーチ 3回 (うち原潜3回)  
計 34回 (うち原潜33回)

## お詫び

89年の横須賀への原子力艦船の入港回数に  
間違いがありましたので、左記のように訂正  
させていただきます。これは、「反核ホット  
ラインだより」20号の時に、入港回数を1回  
多くカウントしてしまい、そのまま前号まで  
正さずにご覧いただきましたので、ここに訂  
正させていただきます。

\*1990年1月22日現在の各港への原子力  
艦の入港回数は、  
横須賀 2回 (うち原潜2回)  
佐世保 0回 (うち原潜0回)  
ホワイトビーチ 2回 (うち原潜2回)  
計 4回 (うち原潜4回)

(1・6) パファー(P級) 午前10時  
横須賀を出港  
(1・17) ハドック(P級) 時間未確認  
ホワイトビーチに入港  
(1・19) フラッシュャー(P級) 午後4  
時 横須賀に入港  
(1・20) ハドック(P級) 時間未確認  
ホワイトビーチを出港  
(1・22) フラッシュャー(P級) 午前10  
時 横須賀を出港  
ハドック(P級) 午前10時30  
分 ホワイトビーチに入港後、  
午前11時40分出港

うち原潜28回  
各港合計34回  
↓  
27回  
33回

## ホット ラインとは

87年から始まった「反核  
ホットライン」も今年で4  
年目を迎えます。そこで、  
新しい読者の方々のために  
も、このホットラインの性  
格を簡単に紹介いたします。  
日本に入るアメリカ軍艦  
船の出入港の情報は、原子  
力艦船しかわかりません。  
あとは、各地のネットワー  
クの情報や新聞等のマスコ  
ミの報道によって知るのみ  
です。そこで、「反核ホッ  
トライン」では、トマホー  
ク原潜のみを対象に、入出  
港時の連絡、抗議行動等の  
ネットワークを作っていま  
す。  
東京近郊の方には、下記  
のテレホンサービスを利用  
すれば、毎日の(役所が休  
みの日はダメですが)原潜  
の入出港の状況がわかるよ  
うになっています。

## 原子力艦入港情報 テレホンサービス

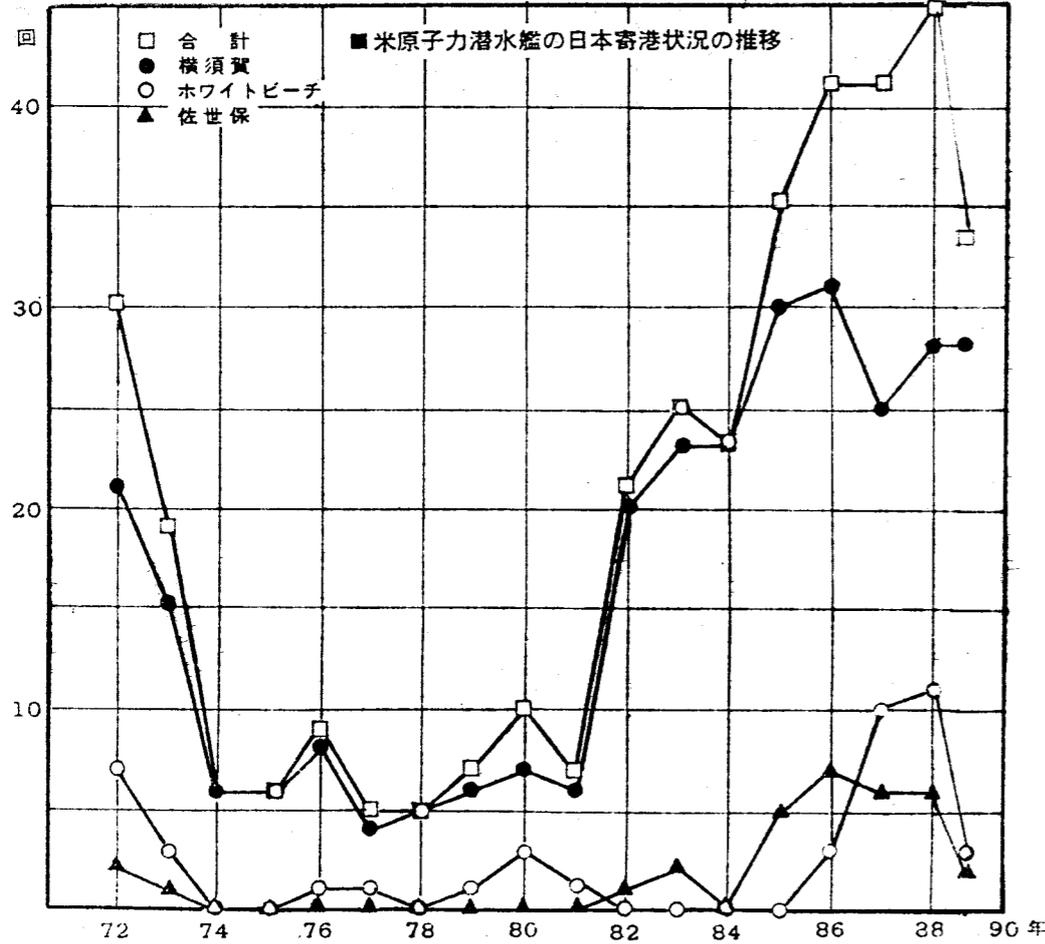
プッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗誦番号 1071  
クロハ イレナイ

## 89年の原潜の動き

東ヨーロッパの社会変革とともに始まった東西  
ヨーロッパ圏での世界的なデタント。イラン・イ  
ラク戦争の終結により、米軍のペルシャ湾からの  
撤退。それにより、原潜のペルシャ湾でのパトロ  
ールの相対的な位置の低下。今度は、アジア・太  
平洋でのパトロールの強化へと確実にシフトが移っ  
てきたのではないかと考えられます。  
88年と比べると、日本への米原潜の寄港回数は  
落ちていますが、それは、佐世保、ホワイトビー  
チへの寄港が減っただけで、依然、横須賀への寄  
港は減っていない。横須賀を起点として、極東太  
平洋での対ソ戦略には変化がないということだろ  
うか。

チームスピリット演習の時には、沖縄(ホワイ  
トビーチ) 佐世保に寄港したが、PACEX  
がらみで横須賀に原子力艦船の入港が相次いだ。  
特に9月から10月にかけての約1ヵ月間に8隻の  
原子力艦船の入港は、新記録である。  
また、トマホーク搭載艦であるロサンゼルス級  
原潜の寄港増加にも注意しなければならぬ。特  
にCLSS(水中垂直発射)の原潜(シカゴ・ルイ  
ビル・ヘレナ)の入港が増えてきている。このこ  
とは、アジア・太平洋地域がますますトマホーク  
時代に入っていることを物語っている。そのこと  
は、東西ヨーロッパでの世界的な東西の緊張緩和  
とは逆に、アジア・太平洋では、依然として海の  
東西対立は進行していることがわかる。

注) 72年のホワイトビーチは復帰後のみ



# にゆうす すびりつと

第十回

## 再燃する自衛隊海外派兵問題

核輸送・邦人保護「口実」に

全国運動情報コーディネーター  
青木雅彦(京都市)

今 秋政府部内で大もめにもめていた、再処理されたプルトニウム輸送船の英仏からの護衛方法が決定した。92年から始まる高速増殖炉でのプルトニウム使用に合うよう、海上保安庁所有の専用「巡視船」を建造するという。自民党の国防派が強く主張していた自衛隊の艦船による護衛案は一応退けられたわけだが、この「巡視船」へリ2機に、35機機関砲装備、建造費の二百三億円もすこいが、六五〇〇トンの排水量はいかなる自衛隊の護衛艦よりも大きい。

外国に対してはこれは「準軍艦」だから安心してくれと言いつつ日本の海上保安庁的な部隊は外国では「準軍隊」として扱われるのが普通、国内向けには自衛隊を使わないから法律の改正も必要なしという日本政府十八番の二枚舌的な決定だ。また防衛庁も「万一の事態には協力」して「情報活動面で支援する」というからますます玉虫色だ。  
元々プルトニウムは使用だけでなく、その

輸送方法も安全性が保証されないから危険だとかねてから指摘されていたが、この問題が今後尾をひきそうなのは、時を同じくして政府部内で自衛隊の海外派兵推進論が台頭してきたからだ。火付け役は海部首相本人。10月5日衆院予算委答弁で自衛隊の「海外派遣」について「国民一般、国会の議論踏まえ今後検討したい」と積極姿勢を表明。翌日今度は松本防衛庁長官が一旦引つ込められていたプルトニウム輸送船の自衛艦による護衛(自衛隊法の改正が必要)案を「改めて協議しよう」と言いだした(後撤回)から、自民党タカ派議員も勢い付き、この問題を自衛隊海外派兵の突破口にという意向が露になった。

首相や防衛庁長官は御存知ないようだが、実は日本軍の海外派兵問題に関する原則は明快一点の疑いも無いものだ。「現行憲法の条章と、わが国民の熾烈なる平和愛好精神に照し、海外出動は、これを行わない」という参議院本会議の決議(54・6・2)は内外の不

## 爆弾と花輪

栗原貞子

「ナガサキのきょうだいに送る」  
年月に漂白され  
熱線で灼(や)かれた日も遠くなり  
飽食に馴(な)れて野草で作った団子の  
にがい味も忘れ  
風化は徳(しの)びよっていたのだろうか  
ころあいを はかって  
爆弾を花輪に偽装し  
核駈らしの使命を帯びて  
ロドニー・デービス号は

被爆の地へ入港した  
岸壁に集まって叫ぶ市民や労働者  
死者たちの写真を胸に掲げ  
慰霊碑の前に座って  
阻止する被爆者たち  
核の有無を明らかにせぬ限り拒絶すると制止する市長を無視して  
白い軍服の艦長たちは  
慰霊碑に近づけぬまま  
遠くから花輪を供えて退散  
死者たちを二度殺す核駈らしを  
怒った被爆者たちは  
花輪をふんづけてふみしだいた  
核の有無を明らかにせぬのがA国の原則なら  
つくらず 持たず 持ち込ませぬのが  
日本の国是だ  
犯罪者が家族に拒絶されるのを

安を解消して自衛隊法の成立を促すために行われたものである。つまり自衛隊に関しては先ず海外派兵禁止ありきという訳だ。  
しかしこの決議を制約と考える人達は、何とか抜け道をと模索を続けている。それらは従来①国連平和維持軍参加、②国連軍事監視団参加、③海外災害への派遣、などの武力行使を目的としないもの(これらは政府解釈では「合憲」。ただし法改正必要)だったが、今回の核輸送船護衛は「新手法」(当然武力行使が前提になる)である。  
十月の海部答弁ではこれらの「口実」のほかに「緊急時の在外邦人の救出」のために自衛隊の「海外派遣」を行う可能性を何気なく(?)付け加えた。しかしこのような行動は、「二十日のパナマへの米軍進攻も建前は「米民間人の保護」だったが――武装した部隊を他国の領土に送り込むことになり(日本政府はこれを「海外派兵」と呼ぶ)、政府答弁でも明確に違憲としている(80・10・28衆院政府答弁書)ものだ。  
米ソの軍事費が削減される一方、日本の軍事費は来年6%の増額を要求している。掛け値無しの軍事大国化だ。これを背景に90年代は日本の海外派兵と核武装化の是非が、日米安保の行く末と絡んで大きな論議を呼ぶことは確実だろう。(89・12・20記)

無視して 土足で家にあがり  
殺した死者へ花を供えることは  
国際儀礼といえるだろうか  
ロドニー・デービス号を訪問して  
花束を捧げた女たち  
友好とは 従属することではない  
核駈らしを受け入れることではない  
一度目は あやまちでも  
二度目は 裏切りだ  
死者たちへの誓いを忘れまい  
十二月初め、広島在住の詩人、栗原貞子さんが編集部に送って下さった作品です。「長崎の友人たちをばげましたくて」との手紙がそえられていました。感謝をこめて掲載させていただきます。(編集部)

## 新刊 パンフレット

# 生命の海へ

## 非核独立太平洋ベーシック

■総論  
浮上する太平洋の島々/  
非核独立を求める太平洋  
島民/太平洋の核化と軍事化

■話題の国々  
■歴史と統計 など  
太平洋問題入門者  
必携の資料満載!  
定価●600円  
2月中旬発行

発行 トマホークの配備  
を許すな! 全国運動

### 会計報告

(89.12.15~1.16)

#### [収入]

○前月からの繰越	△ 14,451
経常繰越	235,549
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	305,326
会費収入	172,500
内	
維持団体	0
維持個人	86,000
参加団体	0
参加個人	16,500
通信会員	70,000
カンパ収入	34,610
行動収入	0
資料収入	24,000
反核ホットライン収入	0
アンケート調査収入	74,216

#### [支出]

●今月の支出	△306,989
家賃(1月分)	50,000
水道光熱費	11,996
電話代	17,735
郵送費	36,262
文具代	0
印刷費	43,800
行動費	10,400
資料経費	0
反核ホットライン経費	0
アンケート調査経費	134,016
郵便振替等手数料	2,780
●次月への繰越	△ 16,114
経常繰越	233,886
借入金繰越	△250,000

## 対潜作戦センター情報公開差し止め 訴訟取り下げと公正審理を求める 署名運動にご協力を!

昨年九月、沖縄県那覇市当局は、防衛施設局の「対潜水艦作戦センター」建設計画について、市民から情報公開条例にもとづいて公開請求されていた建築計画通知書の全部公開を決めました。しかし、国は公開決定の取り消し、差止めの行政訴訟を起こし、那覇地裁は一部公開停止を決定しました。非公開部分をめぐって、現在裁判が争われています。

国は「防衛上重大な支障がある」といっています。住民の知る権利も地方自治も「そこ

のけそのけ「国防」がとおる」というのです。タイコンログ事件が情報公開制度で明らかにされていったアメリカと比べても、その秘密主義にガクセンとしてしまいます。

「情報公開法を求める市民運動」は全部公開に踏み切った那覇市を応援する署名運動を進めています。皆さんのご協力を!

締切り●二月二十八日

送り先●情報公開法を求める市民運動また

はトマ喰い虫社まで

## 求ム! スタッフ、助っ人

●編集から印刷、発送まで「トマ喰い虫」はすべて手作りです。ミニコミ作りに興味ある人、平和運動の新しい情報に触れてみたい人、イラストやデザインをやってみたい人、とにかく何かやってみようと思ってるあなた! 大歓迎します。

●発送を手伝ってくれませんか? 毎月20日直後の日曜日、トマ喰い虫社分室(東横線日吉駅下車044-63-5101)で。次回は

2月25日(日)午後2時から。

### 月刊トマ喰い虫 第五十一号

月刊反トマホーク通信改題 改題第一号

一九九〇年一月二十日発行(通巻五十一号)

\*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九

バル青山五〇二 トマ喰い虫社

☎〇三(四九八)六〇九五

〇四四(六三)五一〇一

FAX〇四四(六三)九九〇七

郵便振替 東京六一三六一四八

\*編集 トマ喰い虫編集委員会

\*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)